

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000366		
法人名	株式会社 道央ケアセンター		
事業所名	グループホーム つつじⅡ		
所在地	小樽市朝里川温泉2丁目694番地4 (電話) 0134-54-0200		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年3月8日	評価確定日	平成20年3月26日

【情報提供票より】(20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年5月2日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27人
職員数	26人	常勤14人, 非常勤12人, 常勤換算12.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	5階建ての	3～5階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35000円	その他の経費(月額)	20000円	
敷金	無		暖房費(10～5月)8,000円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000	円	

(4) 利用者の概要(3月 8日現在)

利用者人数	26名	男性	4名	女性	22名
要介護1	9名	要介護2	10名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 84.0 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東小樽病院・中垣病院・野口整形外科医院・朝里病院・朝里整形外科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所では毎週日曜日、喫茶店を各ユニットで交替に場所を提供して開催し、ユニット間の垣根を越えて利用者と職員の交流の場になっている。食事の献立は法人の栄養士が作成し、調理は各ユニットで副食1品を全事業所分を調理して、ほかのユニットに、利用者も協力して運搬するなど、3ユニット合作の豊かな食卓になっている。敷地内にグループホームを数か所隣接して運営され、合同の行事を開催するなど、利用者と職員の楽しみとなっている。利用者に係わる職員は日勤者と夜勤者が区別される仕組みになってそれぞれ専属で、書類上の連携はなされているが、介護計画などの作成に夜勤者と協働が見当たらない。馴染みの関係作りなど工夫が求められる。「ホーム便り」を発行し、家族の方へ情報の提供がなされることを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で示された、介護計画に対する実践記録は整備され、介護計画の見直しに役立てている。また、災害対策では、近隣施設との合同訓練、夜間を想定した避難訓練も実施され改善されている。現在、地域の方々の協力を得られるよう継続した取り組みが行なわれている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者と職員は自己評価に取り組んでいるが、ガイドブックの用意がなく、着眼点の正しい理解に欠けている。さらに勤務体制により、夜勤者が評価に加わっておらず、今後の取り組みの課題となろう。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催をしているが、地域の参加者が民生委員のみで広がりが少ない。メンバーの幅広い呼びかけによる会議のあり方、また、評価の関わる取り組み状況の説明や防災への協力が得られるよう取り組みを期待したい。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見を集約するために意見箱を玄関に設置しているが、あまり利用されていない。面会時には管理者は話を聞くようにしているが、意見はほとんどないが職員の傾聴へのスキルアップを期待したい。また、家族の意見や苦情などを聞く手がかりとして、「ホームたより」の発行への取り組みが求められる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所の近隣は温泉街で一般住宅が少なく、住民との暮らしでの関わりには難しさもあるが、利用者は足浴を楽しんだり、小学校の行事に招かれて出席、また、夏祭りやユニット合同の行事の取り組みなどで地域との交流が少しずつ広がりを見せている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としての理念はあるが、地域密着型サービスを含めた項目は見当たらない。	○	現在の理念に、さらに地域密着型サービスの視点から見直し、地域の中で利用者の生活を配慮した理念が作られることが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念の共有と実践に向けての取り組みが不足がちである。	○	全職員が同じ思いで理念の学びと実践に向けて取り組むことが求められる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域は温泉街で地元の温泉で足浴を楽しんだり、小学校の行事にお招きを頂いて参加したり、地域の人々と交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は自己評価に取り組んでいるが、項目によってはガイドブックの参照がなく正しい評価と言えない点がある。また、夜勤者は係わっていない。	○	全職員で評価を活かした取り組みを期待したい。

小樽市 グループホーム つつじⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されているが、幅広い出席者の広がり不足を感じる。事業所の報告などの話し合いのほか医師を招いての学習会もあった。また、意見の中から「雪あかり」の見学も実現するなど、地域の協力や理解も増えつつある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは日常的な報告にとどまらず、出向いで話し合いをし、信頼される事業所作りに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所では、金銭出納の明細を2ヵ月ごとに家族に知らせている。その際、ご家族の方にお便りを記載して、利用者の様子を知らせている。事業所として「たより」の発行はない。	○	利用者の暮らしぶり、事業所のできごとや職員の紹介、異動のお知らせなど「ホームたより」の作成により、家族に知らせる取り組みを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者の苦情受付の窓口は紹介されている。家族等の面会は頻度差によって、職員とのふれ合いの度合いが異なり、家族の方との交流は不足している。家族は事業所の様子を十分に把握する方法が少なく、意見の反映までに至っていない。	○	家族の方が管理者や職員と気軽に話せる場と、家族の抱く意見や要望を上手に引き出すテクニックが必要であり、職員一人ひとりのスキルアップの向上を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動などによって、利用者が不穏にならないように日頃からユニット間の交流の場を設けている。また、慣れない職員はリーダーが補佐して対応している。		

小樽市 グループホーム つつじⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットでは管理者が講師となり毎月テーマを決めて勉強会を行なっている。出席しない職員は記録の閲覧で共有する仕組みになっている。外部の研修には参加が少なく、情報の収集と取得が十分とはいえない。	○	職員のケアサービスの質の向上を目指して、外部の研修への参加が求められる。また、夜勤専属職員の日常業務の研修など取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内のグループホームは近隣にあり、毎週1日だけは入浴日の設定を避けて、ユニット間での交流ができる体制にし、プログラムを企画、実施しており、利用者の楽しみとなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までの手順はおおよその取り決めがある。本人と家族は事業所を見学し、職員も面接に加わるなど入居後はユニットに馴染めるように配慮して支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の得意分野を把握し、教えられる立場になったりしながら、利用者本位に運ぶように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居以前の生活パターンを理解し、暮らし方の希望など家族からも意見を聞き、その人らしく暮らせるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位に思考して介護計画書を作成しているが、日勤者と夜勤者が専属のため区別されて係わり、全ての職員がチームとなっていない。	○	勤務体制によるダメージを最小限に抑え、夜勤者も含めた職員の意見やアイデアを反映した介護計画書の作成が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の介護計画は毎月のケア会議で検討し、概ね3ヵ月ごとに見直しをしている。ただし、利用者の状況が変化した場合はその都度見直しをしている。しかし、夜勤者がケア会議に出席していないうえ、家族の意見反映が十分とはいえない。	○	日勤者は、日勤のみで夜勤はしていない。また、夜勤者は日勤のケアはしておらず、さらにユニットの固定がなく全ユニットを交替で勤務している。勤務体制の改善により、利用者一人ひとりの介護計画及び実施の共有化が図られるように配慮と工夫が望まれる。また、見直しに際しても家族の意見や説明が望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々の暮らしの中で、美容室利用のための外出支援、特別な外出など利用者本位に支援している。また、家族が宿泊可能なゲストルームを用意、利用して頂いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望で掛り付け病院の送迎バスを利用し、職員が引率して受診をしている。常時相談できる体制になっている。また、隔週には整形外科医師が事業所に往診にきている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としては、重度化や終末期に関する指針についての取り組みはしていない。具体的に事態が発生してから検討している。	○	入居時から重度化や終末期のあり方について同意や話し合いができる体制作りへの取り組みを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重し、言葉掛けや対応など職員は細かく配慮をしている。記録の取り扱いは慎重である。面会簿に工夫がほしい。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニットでは毎日、体操をするなど身体の維持に努力をしているが、強制ではなく自主的に参加を促している。どのように過ごしたいか利用者の希望を重要視している。		

小樽市 グループホーム つつじⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットの台所のカウンターは、利用者が一緒に調理ができるスペースがあり、楽しみながら準備をしている。また、ユニットで副食の一品を全ユニット分を調理をする分業制度を取り入れ、調理の後、利用者も運搬の協力をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員は、利用者の希望にそうように、入浴支援を行なっている。週5日間を入浴日と定め、利用者は、少なくとも週2回の入浴をして頂くように支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活リズムの中で、自分の得意とする分野で利用者は家事の一端を担うなど、充実した時を過ごしている。掃除、洗濯物たたみなど役割や楽しみごとを支援している。編物を趣味とし、制作を楽しむ利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい季節は、利用者はそれぞれ希望に応じて事業所の周辺を散策して楽しみ、散歩コースが造られており、ほかのグループホームの方々と交流が図られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の3, 4, 5階がユニットで外玄関のある1階には事務所があり、事務員が日中は在室している。各ユニットにはセンサーの設置により、不用意な外出などには配慮がされている。また、夜間は防犯上施錠している。		

小樽市 グループホーム つつじⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体の取り組みとし、近隣施設と合同で昼・夜を想定した避難訓練を年2回、実施している。	○	日頃から地域の方々の協力を得られるように働き掛けてはいない。今後の取り組みを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量など個別に把握して記録にとどめ、健康チェックに役立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間と食堂、トイレの位置などは判りやすい表示が付けられている。浴室には『ゆ』ののれんが掛けられている。壁面を利用した写真の掲示などで、利用者の生活に広がりとし、楽しみと話題提供で活動意欲の向上に取り組まれることが今後期待される。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は窓から近隣の景観が楽しめ、一人ひとり使い慣れた調度品を持ち込み、落ち着いた部屋になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。